



令和7年度 高校生ボランティアリーダー養成事業  
「みんなでハピボラ！」

# 各校の活動報告書

心の教育推進協議会  
(事務局：石川県教育委員会事務局生涯学習課)



---

# 目次

- **各校の活動報告**
  - ▷ 小松工業高等学校 ————— 01
  - ▷ 寺井高等学校 ————— 02
  - ▷ 野々市明倫高等学校 ————— 03
  - ▷ 金沢泉丘高等学校 ————— 04
  - ▷ 金沢二水高等学校 ————— 05
  - ▷ 志賀高等学校 ————— 06
  - ▷ 鹿西高等学校 ————— 07
  - ▷ 穴水高等学校 ————— 08
  
- **活動報告書への助言** ————— 09

## 活動名：小松工業高等学校インターアクト部（ボランティア部）

### 活動内容

- ・ 学校周辺清掃活動  
（6月25人、7月11人、9月12人、11月13人）
- ・ 花壇整備  
（4月24人、10月11人）
- ・ 募金活動  
（緑の募金活動・4月26人  
24時間TV募金活動・8月10人  
熊本地方記録的豪雨による支援募金活動・11月13人  
赤い羽根募金活動・12月8人）
- ・ 社会を明るくする運動月間啓発キャンペーン（7月5人）



8月31日 24時間TV募金



6月6日 学校周辺清掃活動



7月8日 社会を明るくする運動



10月28日 花壇整備

### 成果と課題

- 学校の周辺をきれいにする事ができた。
- 人の役に立っている実感があった。
- 募金活動を通していろんな人に話しかけることが出来た。
- ポイ捨ての現状を知ることができた。
- △学校周辺以外の清掃活動も出来たらよかった。（海岸清掃活動に参加してみたい）

### 感想

- ・ 人の役に立ててうれしかった。気持ちよかった。
- ・ 誰かの役に立てるようになりたいと思うようになった。
- ・ ゴミ拾いをしたら良い気持ちになれた。

## 活動名：地域イベントスタッフと小児がんチャリティ活動

### 活動内容

- ①小児がんチャリティ活動 レモネード販売（25人）
- ②保育園児と伝承遊びで交流、運動会補助員（16人）
- ③地域敬老会 笑いヨガで盛り上げ隊（5人）
- ④市民ボランティアフェスティバルなど地域行事のボランティアスタッフ（20人）
- ⑤放課後等デイサービス 障害のある中学生と交流（6人） など



↑10月18日 文化祭  
←レモネードスタンド

→10月12日 能美市民  
ボランティアフェスティバル

9月27日  
↓保育園運動会補助員



### 成果と課題

- ・事前の計画と役割分担、準備を入念に行い、レモネードの販売目標を達成。2万円を超える寄付をすることができた。
- ・幼児（伝承遊び）から高齢者（笑いヨガ）、障がいのある中学生まで、多様な対象者に応じた柔軟なコミュニケーション能力を養えた。
- ・用意されたプログラムに参加するだけでなく、ニーズに気づき、自らのアイデアで新たな交流や支援を形にすることが今後の課題である。

### 感想

- ・地域との交流を深めたいと思ったので参加しました。はじめはうまくできるのか不安でしたが、何事も交流をする経験を通して、自然と前に進む事ができると感じました。
- ・園児がとにかくかわいくて、ボランティア活動によりこちらが幸せをもらいました。

## 活動名：地域の笑顔を支える「祭り・マラソン・バザー 3つの現場から」

### 活動内容

北国街道野々市の市ボランティア（7人参加）  
…地域の子供たちが製作した夢灯籠700個を道路に設置

じよんがらの里マラソン補助員（6人参加）  
…参加者受付や更衣室への誘導、ニュースポーツ体験の手伝い

ののシティバザーボランティア（4人参加）  
…ゲームコーナーの運営補助



9月7日 北国街道野々市の市



10月19日 じよんがらの里マラソン



11月15日 ののシティバザー

### 成果と課題

○イベント来場者の方々やスタッフの皆様との交流を通じ、社会貢献の意識や多様な人々とのコミュニケーションの重要性を学んだ。  
○受動的な活動からの脱却：自分たちで地域の課題を見つける（課題発見型）、部員のモチベーション維持：自分の興味とボランティアをどう結びつけるかが今後の課題である。

### 感想

自分の高校がある街に、こんなに熱心に活動している大人がたくさんいることを初めて知った。街を支えている裏側が見えて、自分も頑張ろうと思った。

## 活動名：JRC活動を通しての地域貢献

### 活動内容

JRC大会（8人参加）

...興味のある分野のボランティアに関するお話を聞く

百万石ボランティア（5人参加）

...迷子を探して助ける

献血（3人参加）

...部員で献血をする

文化祭（7人参加）

...献血クイズを行い、多くの人々に献血に関心をもってもらう



6月6日 JRC大会



6月7日 百万石ボランティア



7月29日 献血



8月30日 8月31日 文化祭

### 成果と課題

○学校内の生徒だけでなく、文化祭やボランティアを通して多様な人々と関わりを持ち、興味関心をもってもらうきっかけを作ることができた。

△ボランティアや活動に参加してくれる方々の多くが大人だったので、もっと若者や外部の学生が楽しめて、気軽に関わられる活動をしていきたい

### 感想

どの活動でも新たな学びを得ることができ、興味を持って楽しく行うことができた。特に献血についての活動では献血を必要としている人や献血を広める方法を考える良い機会となった。

## 活動名： 「地域の健康・治安維持活動」

### 活動内容

#### 校舎内での募金活動

…二水祭のときにポスターの作成と校舎内での募金活動をした。

#### 百万石まつりでの迷子搜索

#### 金沢マラソンでの給水ボランティア

…給水所でランナーの方々にスポーツドリンクを提供した



6月7日 百万石まつり



8月24日 二水祭募金活動時のポスター



10月26日 金沢マラソン給水ボランティア

### 成果と課題

- 負傷者等大きな事故なく行事が終了した
- 部員それぞれが意欲的に参加していた
- 地域の人と交流することができた
- △初めて行う活動で慌ただしくなった事があった

### 感想

二年生として昨年の経験を活かして一年生と協力し、サポートすることができたので良かった  
すごく大変だったが、達成感を感じることができた

## 活動名：被災した地元へ寄り添う地域への貢献活動 ～私たちにできることを、一歩ずつ～

### 活動内容

#### 1 志っ張りサポート隊の活動

【12人参加】

・高齢者宅を訪問し、生活支援（片づけや掃除、除草、4～7月 月1～2回）

#### 2 介護福祉施設での交流会

【12人参加】

①介護医療院悠悠にて畑とお菓子づくり、認知症・災害対応について受講（6月6日）

②福祉・介護施設 楓の家リゾートにて運動会を企画し、交流会実施（11月13日）

#### 3 公共施設・介護福祉施設での清掃・除草作業

【12人参加】

①バスターミナルの清掃・除草作業（5月26日・11月17日）※生徒会・レスリング部と

②志賀町デイサービスセンターにて清掃・除草作業（9月より月1～2回）

#### 4 募金活動（赤い羽根・歳末助け合い）

【12人参加】（11月4日・12月15日）

#### 5 地域行事のボランティア活動

【4人参加 ※福祉コースの部員と共に】

・防災・世代間交流イベントにてブース運営補助（11月30日）

#### 6 高校生ボランティア・アワード2025全国大会への参加

①ブース発表・交流会に参加 【6人参加】（8月23・24日）

②東京巣鴨ライオンズクラブの方との座談会【11人参加】（11月17日）



5月12日 志っ張りサポート隊



6月6日 介護医療院での訪問活動



11月13日  
楓の家での運動会



5月26日  
公共施設の清掃活動



12月15日  
募金活動



11月30日 地域行事の運営補助



8月23・24日 発表・交流会

### 成果と課題

- 高齢者の孤立を防いだり、震災後の片づけ等にも協力することが出来た。
- 世代を超えて繋がることができ、施設の利用者、職員の皆さんが喜んでくれた。
- 社会福祉協議会、生徒会等とも協力して積極的に取り組むことができた。
- 色々な志を持って活動している方との交流を通して刺激をもらい、自分ができることをコツコツと続けていくことが大切だと強く感じる事ができた。
- △日程の調整が難しかった。活動範囲に限られる。
- △もっと細かい部分まで予想して計画する必要がある。

### 感想

自分たちでも誰かの役に立ち、喜んでもらえることがあるのだと活動を通して実感した。利用者の方や職員、地域の方々から「ありがとう」「また来てね」といった温かい言葉をいただき、地域とのつながりの大切さを学ぶことができた。今後も地域の方々の声をお聴きして絆を深め、高齢者の方々が安心して暮らせる地域づくりに貢献していきたい。

## 活動名： 高校生の力で中能登町を笑顔に！

### 活動内容

中能登町トレジャートレイルラン運営ボランティア（5人参加）

・・・ゴールテープ係、順位確認係を行った。

中能登町福祉のつどい運営ボランティア（8人参加）

・・・お楽しみコーナーの運営補助やお茶券の販売などを行った。

仮設住宅のごみ回収（6人参加）

・・・仮設住宅に住んでいる高齢者のゴミ出しを住人に代わって行う。

足湯ボランティア（5人参加）

・・・被災し、仮設住宅で生活している方に、足湯の提供、ハンドマッサージを行った。



11/02 トレジャートレイルラン  
運営ボランティア



毎週木曜日 ゴミの回収



1/15 足湯ボランティア

### 成果と課題

○被災された方々とお話する中で、現状を知ることができ、自分たちにできることを見つけ、実践することができた。

○地域の方々に喜んでもらえるようなボランティアを計画し、実践できた。

△高齢者（特に被災された方）との会話で難しい部分があったため、事前に、講習会などを企画すればよかった。

### 感想

地域の方を対象に行ったボランティア活動では、自分たちが知らなかった地域の様々なことを知ることができた。また、被災された方との会話を通して、その人の目線から、社会に求められることや、私たちにできることを発見することができた。しかし、ボランティアを行う中で、配慮が行き届かなかった場面もあった。今後は、この反省を生かし、より地域の方々に喜んでもらえるように努力していきたい。

## 活動名：イベントを通して地域とともに歩む穴水町の復興

### 活動内容

穴水町内清掃ボランティア（50名参加）  
…各部活動の生徒を中心に編成し、実施

長谷部まつり運営ボランティア（27名参加）  
…参加希望の生徒を中心に編成

穴水町ハロウィンパレード運営ボランティア（9名参加）

歳末募金ボランティア（6名参加）  
…生徒会執行部で編成し、実施した



4月4日 穴水町内の清掃活動



7月19日 長谷部まつりボランティア



10月25日 穴水町ハロウィンパレード運営



12月6日 歳末募金ボランティア

### 成果と課題

- 前期、後期の生徒会執行部と協力して、周知、参加の呼びかけを行ったら、参加希望してくれる生徒が多かった。
- 町のイベントでは参加してくれた生徒がみんな意欲的に活動してくれてとても助かったと喜んでもらった。
- △参加者の偏りが少し目立ったので、もっと多くの生徒に参加してもらえるような周知方法を見直す必要がある。

### 感想

ボランティア活動を通して、町内の雰囲気やイベントが少しずつであるが震災前に戻ってきているように感じた。  
私達高校生のような若い年代が様々なボランティアに積極的に関わることで地域の活性化につながればいいなと感じた。  
「復元」ではなく「復興」につながるような活動を来年度もしていきたい。

高校生ボランティアリーダー養成事業「みんなでハピボラ！」活動報告書への助言  
ファシリテーター：池田幸應（金沢星稜大学 名誉教授）

### 「一步を踏み出すこと」～小さな勇気が、誰かの笑顔につながるボランティア活動～

#### 1. 【活動報告書の各校の取組みについての助言およびメッセージ】

##### (1) 学校名：小松工業高等学校

活動名：小松工業高等学校インターアクト部（ボランティア部）

コメント：学校周辺での清掃活動、花壇整備などの身近なボランティア活動をはじめ、（緑の募金活動、24時間TV募金活動、熊本地方記録的豪雨による支援募金活動、赤い羽根募金活動など、複数の募金活動や社会を明るくする運動月間啓発キャンペーンでの活動などを通して、自分たちと社会との関係を意識し、「誰かのために役立ちたい」との心の醸成と継続的な実践へとつながっているものと思います。

##### (2) 学校名：石川県立寺井高等学校

活動名：地域イベントスタッフと小児がんチャリティ活動

コメント：小児がんチャリティ活動、保育園児との伝承遊び交流や運動会補助、敬老会笑いヨガで盛り上げ隊、市民ボランティアフェスティバル、地域行事のボランティアスタッフ、放課後等デイサービス、障害のある中学生と交流など、多くのメンバーが積極的に学外の地域へ出て、小さな子どもたちから高齢者までの多様な方々との交流からボランティアの楽しさにつながったものと思います。

##### (3) 学校名：野々市明倫高等学校

活動名：地域の笑顔を支える「祭り・マラソン・バザー3つの現場から」

コメント：北国街道野々市の市ボランティア、じょんがらの里マラソンの運営補助、ののシティバザーなど、地域の大きな事業にも連携参加し、各イベントでの来場者、スタッフなどの多くの方々との交流を通じ、社会貢献意識の深化やコミュニケーションの大切さ、そして自分たちからの主体的な課題発見にもつながったものと思います。

##### (4) 学校名：石川県立金沢泉丘高等学校

活動名：JRC活動を通しての地域貢献

コメント：赤十字の理念に基づき、高校生の立場でJRC大会や百万石祭りでの迷子ボランティア活動、献血、そして文化祭でも献血推進活動など、自分たちは勿論、多くの方々に赤十字の活動を知っていただき、また、献血活動でも命の大切さについて理解が深まったものと思います。特に文化祭での献血クイズによる献血への興味づけは、高校生らしく効果であったものと推測いたします。

(5) 学校名：石川県立金沢二水高等学校

活動名：「地域の健康・治安維持活動」

コメント：赤十字の理念に基づき、高校生の立場で文化祭での募金活動、百万石まつりでの迷子ボランティア、金沢マラソンでの給水ボランティアなど、学校内に加え、地域(金沢市)での大規模な恒例行事での運営にもボランティア参加しており、赤十字への理解や地域での様々な取組みやそれを支えている多くの方々とも交流につながり、地域を感じ、その一員としての使命感や地域ボランティアの素晴らしさを感じることができたものと思います。

(6) 学校名：石川県立志賀高等学校

活動名：被災した地元へ寄り添う地域への貢献活動 ～私たちにできることを、一歩ずつ～

コメント：まず、志賀町も今回の「令和6年能登半島地震」で大きな被害を受けた地域であり、高校生も含め住民の皆さんへのご苦労をお察しいたします。

志っ賀りサポート隊としての高齢者宅への訪問や生活支援、複数の介護福祉施設での交流や支援活動、公共施設での清掃活動、そして赤い羽根・歳末助け合いでの募金活動、地域行事としての防災・世代間交流イベントでの運営活動への参加など、学内の複数の団体が地域に出て多くのボランティア活動を行っており、素晴らしいです。特に、高校生ボランティア・アワード2025全国大会では、全国の高校生ボランティアとの交流や大人のライオンズクラブの方々との座談会などにおいて、地域でのボランティアの大切さを再認識する機会を持ったことと思います。

(7) 学校名：石川県立鹿西高等学校

活動名：高校生の力で中能登町を笑顔に！

コメント：まず、中能登町も今回の「令和6年能登半島地震」で大きな被害を受けた地域であり、高校生も含め住民の皆さんへのご苦労をお察しいたします。

地域の大きなイベントである中能登町トレジャートレイルランや福祉のつどいでの運営ボランティア、そして被災された方々に対し、仮設住宅のごみ回収や足湯・ハンドマッサージボランティアなど、被災し仮設住宅で生活している方々にとって、皆さんの笑顔の活動が大きな元気につながっていることと思います。

(8) 学校名：石川県立穴水高等学校

活動名：イベントを通して地域とともに歩む穴水町の復興

コメント：まず、穴水町も今回の「令和6年能登半島地震」で特に大きな被害を受けた地域であり、高校生も含め住民の皆さんへのご苦労をお察しいたします。

穴水町内の清掃活動、地域のメインイベントの長谷部まつりやハロウィンパレードでの運営、そして、歳末募金ボランティアなど自分たち以外に生徒会執行部や参加希望生徒と共に地域の復興に大きく貢献しており、多くの被災者が皆さんの笑顔の活動で元気につながったことと思います。

## 2. 【石川県内の高校生の皆さんへのメッセージ】

今回の8つの高校すべてにおいて、生徒会やボランティア部などが中心に学内の一般生徒にも声掛けをしながら積極的に地域に出てボランティア活動をしており、地域の方々や他校の生徒、各団体、行政とも連携しながら、高校周辺や市町の地域行事にも参加、活動している様子が伝わってきます。これらの活動により、自分たちの身近な地域での「もの」や「こと」に接し、これらについて知り、自分たちの思いや考えを実際に行動へと形にして行く面白さ、或いは難しさを感じながら、地域の様々な課題に対して、「自分ごと」としての意識が高まって行くことと思います。また、自分一人ではできなかったことも、仲間と共に取り組んで行くことで可能となったり、他の生徒や活動で出会った方々の異なる考えや方法について、そしてチームとしてのボランティア活動の強みやその可能性についても知る機会となります。

本来、「ボランティア (Volunteer)」の語源は、ラテン語の「Volo (意志する、決定する)」に由来する「Voluntas (自由意志)」です。つまり、私たち一人ひとりには自分の意志があり、ボランティアをする側、受け入れる側の双方の意思の上にボランティア活動が成り立ちます。したがって、皆さん自身と仲間の生徒の皆さん、そして皆さんの思いを向ける相手側の地域の方々の思いを知り、同じ目線で活動目標を設定し、無理をせずに簡単にできることから継続的活動に繋げて行き、更に発展させて行くことが大切だと思います。そのためには、先ず、皆さん自身が何をしたいのかを考え、学校内外のメンバーとの相互理解、チームづくりをしながら、活動の目的を設定してください。そのためにも、これまで先輩が取り組んできたボランティア活動について振り返り、また、対象となる地域やその人たちに関する情報を共有し、先方のニーズについても理解することが不可欠です。また、自分たちだけで活動しようとせずに、他の生徒や地域の他のボランティア団体等とも連携・協働して取り組んで行くことも大切だと思います。

ボランティア活動の成果は、「自分と誰かの笑顔」です。とにかく「自分ごと」として意識し、ボランティア活動をとらえることが必要です。これからもできる範囲での「My Volunteer」、「Our Volunteer」に取り組んでください。

(なお、特に能登地域では、「令和6年能登半島地震」からの復興が始まったばかりであり、高校生の皆さんができる被災された方々への復興支援ボランティア活動についても、地域を元気にして行くためにも望まれます。)